

case
04

磨き屋シンジケート



- ◆業種 … 金属製品製造業
- ◆会員企業 … 40社(うち金属研磨業者36社)(令和6年10月現在)
- ◆受検者数(累計) … 1級45名、2級25名(令和6年10月現在)

燕市を中心に、地場産業として発展してきた金属バフ研磨は、後継者が育たない課題があったが、金属バフ研磨の技能を「見える化」することで、技能習得を容易にした。厚生労働大臣の認定を受けたことで全国各地に取り上げられ、改めて金属バフ研磨技術への注目が集まり、「燕の金属研磨」のブランディングの確立に寄与している。

(1) 社内検定制度の概要

磨き屋シンジケートは、燕市を中心に共同受注によって大ロットの受注に対応するために、金属バフ研磨業者で組織された事業者団体である。磨き屋シンジケートは、平成30年に「磨き屋シンジケート金属バフ研磨社内検定」の厚生労働大臣の認定を受けた。金属基盤技術の1つである、金属バフ研磨が対象である。

金属バフ研磨とは、多様な金属を磨き光らせることによって付加価値を付けることである。磨きムラがあっても歪んでもいけない。研磨できる形状が幅広いことから、顧客ニーズに応じて多様な金属を磨き上げる実務経験が必要である。

(2) 背景・目的

金属研磨業は燕市が誇る地場産業である。しかし、後継者が育たず廃業が相次いだ。さらに、様々な製品に対応するため機械化が難しく、人の手が絶対的に必要だったが、人材育成も困難だったため、金属バフ研磨業者全体として衰退が危惧される状況下で、「磨き屋シンジケート」が立ち上げられた。再興を図るためには、大ロットの受注だけではなく、技能を見える化し、それに基づいて人材育成し、事業継承を行えるようにする取り組みが急務だった。



(3) 構築前後の取組

① 認定前

金属バフ研磨業者は小規模事業者がほとんどであり、小規模事業者だけでは手間の掛かる社内検定の構築・運営は難しい。そこで、燕商工会議所が磨き屋シンジケートを支えることで、社内検定の認定を目指すこととなった。

まず、検定制度を構築するために、過去にまとめていた金属バフ研磨に求められる技能を棚卸しし、磨き屋シンジケートと燕商工会議所が一緒になって議論し、職務分析を行った。必要な技能や知識を明らかにした後、試験問題の範囲と項目を定め、出題の方法について議論している。特に実技試験の採点をする際の基準については、何度も試行を行い、評価基準をあわせることに腐心した。

認定申請に至る過程では、金属研磨業の人材育成に熱心な磨き屋シンジケートのメンバーと、地場産

業の振興に熱心な燕商工会議所の職員の想いが一致し、互いに連携し合いながら準備を進めることにより認定までたどりつくことができた。

② 認定後

認定を取得した後、記者会見をしたところ多くのマスコミに取り上げられ、注目度は高まった。「金属研磨」は汎用性が高く、メガネや車、腕時計など金属製造業には「研磨」は不可欠である。しかし、大手メーカーでは金属研磨を内製化させる方向に進んでいるが、社内での技術教育に苦勞している面もある。一方で、中小規模の研磨業者は、独自の技術力をいかに継承し、後継者や若手育成を行っていくかが課題でもある。認定社内検定制度は、それを支える人材育成基盤となるだろう。



（４）人事制度・待遇面との連携

他の人事制度との連携は、各社によるところが大きいですが、研磨業全体の技術力の底上げと、後継者育成による安定した技術の提供によって今後工賃が上がる可能性はある。さらに、社員教育に熱心なことに加え技術的な信用へとつなげることができる可能性がある。

（５）構築の効果・メリット

①社内検定構築に取り組んだことによる メリット

社内検定構築を目指すにあたっては、磨き屋シンジケートと燕商工会議所との関係なども改めて確認し、相互にメリットがあるような関係性を構築する

ことで、会則なども改善し、磨き屋シンジケートの組織としての結束力が強くなった。

さらに、磨き屋一番館（燕研磨振興協同組合が市から受託して事業をやっている研修施設）とも連携し、後継者育成や新規事業の促進など、地場産業における人材育成の基盤が確立できた。磨き屋一番館の卒業生に、社内検定の２級を受検してもらうことで、技能水準を客観的に証明できるとともに、一定数の受検者数の確保も可能となっている。

また、社内検定構築に取り組む過程で、改めて金属バフ研磨に求められる技能や知識はなにかを見つめ直すことができたことは大きい。特に小規模事業者が多い中で、これまでは人材育成が困難だったが、金属バフ研磨に必要な技能と知識を体系立てて身につけられるようになったことは地域地場産業の今後の財産にもなるであろう。

②社内検定を構築し認定を受けたことによる メリット

地場産業の事業者集団である磨き屋シンジケートと地域の産業振興を目指す燕商工会議所が「人材育成」という共通目的でより強固な連携の仕組みを確立することができた。さらに、燕商工会議所は地域企業の事業発展が主たる目的であるため、社内検定を通して、地場の産業の重要な部分を担っている研磨業が発展していく事は相互にメリットがある。また受検者数の増加は社内検定制度を永続的に続ける財政基盤を確固たるものにするために重要であり、今後も相互に協力し合いながら社内検定の継続と発展を目指していき、金属研磨業に対するブランディング、高付加価値化を実現させていきたい。